

いよいよ出帆!!

＝ 探査予備調査 ＝



事前説明をする三沢講師



探査装置の海中投入



海底から次々とデータが

本調査に確かな手応え

百三十年前に沈んだロシア軍艦、デアアナ号の船体発見を目指すデアアナ号探査会は、いよいよ具体的な探査活動に入りました。

まず予備調査を三月二十八日に行いました。この調査の結果から得られたデータをもとに、本調査の日程や探査装置の選定など具体的な調査方法が決まりました。

海底は予想より

複雑な地形でした

デアアナ号探査会は、実際の調査を東海大学海洋学部へ依頼しました。この日の予備調査は、同大学の小型調査船「第二北斗」に、調査主任の三沢良文海洋学部講師や学生など担当者九人が乗り組んで行われました。

今回の調査の目的は、直接デアアナ号を発見しようというのではなく、本調査に向けて、海底の地形や、たい積している砂や泥がどのような音波反応を示すかをあらかじめ知ることにあります。

本調査の調査海域は、富士川河口東から田子の浦港入口西までの東西三・六キ、海岸線から沖合までは平均七百メートルの範囲です。

予備調査は、五十一年にデアアナ号のいかりが発見された三四軒屋沖を中心に行われました。測

深機と音波探査機で測定した結果、海底はかなりの起伏があり、予想以上に複雑な地形であることがわかりました。

本調査は六月上旬

に二隻の調査船で

探査期間の短縮からも本調査では二隻の調査船を使用することになりました。また、調査海域を海岸線と平行に東西三百メートル間隔に区切って測定する予定でしたが、東西三百メートル間隔の観測線を狭めてより精度を高めることにしました。また、海底面探査装置や地層探査装置も新たに投入されます。

予備調査終了後、三沢講師は「調査海域に船が沈んでいれば発見できる確率が高い」と話しています。本調査は六月上旬を予定しています。